

第3回 アドバイザリー会議

-
- 日時 11月28日（金） 16：00～
 - 場所 災害対策本部室

会次第

1 出席者紹介

2 これまでの経緯

- アドバイザリー会議
- 議会報告
- 市民参画
 - ・日向ラボ・ラボ
 - ・新しい図書館を語る会

3 策定作業の進捗状況

- 図書館・生涯学習チーム
- 子育て支援チーム
- 複合施設チーム
- 事業手法チーム

4 議事

- (1) ビジョン・コンセプトについて
- (2) 子ども・若者の居場所について

5 今後のスケジュール

2 これまでの経緯

2 これまでの経緯

8月	8日～10日	第2回日向ラボ・ラボ（移動遊び場、移動図書館など）
	12日	第2回図書館・生涯学習チーム会議
	22日	第2回子育て支援チーム会議
	26日～29日	先進地視察（新潟・岐阜方面） 図書館・生涯学習チーム
	27日～30日	先進地視察（福島・栃木方面） 複合施設チーム
9月	18日	第3回子育て支援チーム会議
	24日	第2回アドバイザリー会議
	25日	第3回図書館複合施設整備庁内検討委員会
	27日	第3回日向ラボ・ラボ（中高生が行きたくなるカフェづくり体験）
10月	7日	議会全員協議会
	10日	意見交換会（PTA協議会）
	15日	意見交換会（陶芸クラブ、シャルウィダンス、ヴァイオリン教室）
	16日	意見交換会（木挽き歌実行委員会）
	21日	意見交換会（文化連盟）

2 これまでの経緯

- | | |
|------------|-------------------------|
| 10月24日～25日 | 先進地視察（図書館総合展、仙台メディアテーク） |
| 27日 | サウンディング調査（5事業者） |
| 30日 | 意見交換会（混声合唱団／市内保育園、幼稚園等） |
| 31日 | 意見交換会（牧水顕彰会） |
| 11月4日 | 第3回図書館・生涯学習チーム会議 |
| 6日 | サウンディング調査（3事業者） |
| 10日 | サウンディング調査（1事業者） |
| 12日～13日 | 先進地視察（熊本・福岡方面） |
| 17日 | 第4回図書館・生涯学習チーム会議 |
| | 第2回事業手法チーム会議 |
| 18日 | 第2回複合施設チーム会議 |
| 27日 | 第3回子育て支援チーム会議 |

2 これまでの経緯

アドバイザーリー会議

アドバイザー会議

第1回会議（6月26日）

■開催日:

6月26日(木) 10:00～11:30 桑野教授、青山准教授

7月 9日(火) 13:30～15:00 (株)イツノマ 中川さん

■事務局:総合政策部長、総合政策課(麻田、押川、野村、一木)、
図書館(海野、貴田)

■会議の内容

1. あいさつ

2. アドバイザリー会議及びアドバイザー紹介

3. 議事

(1)これまでの経緯、基本的事項について

(2)検討体制について

(3)令和7年度 of 取組内容について

(4)図書館複合施設整備プロジェクト「日向ラボ・ラボ」について

1. 基本方針に対する評価

委員からは「現在の図書館の状況や先進事例、そして市民との協働意識が丁寧に進められている」との評価があり、新施設に対する期待感が高い状況。

2. 質疑応答

○複合施設としての機能決定

(質問)基本構想では、どの施設を複合するか決定する見込みか。

(回答)年内に図書館に複合化する機能を選定する予定。施設の最適化、稼働率の低い既存施設の機能移転を含めて検討を進めている。

○事業手法について

(質問)PFIを活用して事業を進める方向か。

(回答)事業手法としては、PPP/PFI(公民連携)を含む複数の選択肢(直営、公設民営型など)を比較検討中。今年度中に方向性を決定予定。長期的な視点で「直営 vs 民営」のメリット・デメリットを評価し、適切な選択を模索中。

アドバイザー会議

1 未来の図書館像とデジタル化の進展

図書館の役割は10～20年後の社会変化を見据えた対応が必要。レンタル事業の衰退が指摘され、紙媒体の役割やA I 技術普及に伴う図書館の利用価値の変遷を考慮。長期的視点で将来的に柔軟に対応できる施設計画を立てるべき。

2 ユーザーの期待と基本構想

- 図書館複合施設が市民の期待を集める中、「図書館本来の役割」が後回しにならないよう配慮する必要性が強調された。
- 図書館の未開拓な利用法を広く市民に認知させる取り組みを継続する必要がある。

3 デジタルとアナログのバランス

- 都市と地方における書籍や体験、居場所の差が指摘され、物理的な接触（書籍や体験）が可能な場所の重要性が強調される。
- 特に、地域資源が減少する環境下では、書籍や郷土資料など「生」の形で触れる機会の確保が必要。
- デジタル化が進む中でも、2040年を目指したバランス調整が必要であり、向こう20年は紙媒体とデジタルの技能を共存させる施設像を目指すべきという考え。

アドバイザー会議

4 学校連携と若者の居場所

- 学校との連携強化：紙媒体の書籍や郷土資料を学校図書館を通じて活用する方針を議論。しかし、現状では教育委員会や教員との連携が難しいことが課題。教員の負担軽減や体制整備が不可欠。
- 若者の居場所：部活動の地域移行が進む中、高校生や中高生が放課後や土日に過ごす場所として、図書館複合施設を活用する可能性が示唆される。
- 具体例として、「ティーンズスタジオ」の設置や趣味・学習ができるスペースが挙げられる。

5 複合施設としての場所の「呼び名」と機能性

- 理念に基づき、図書館と他施設の「有機的なつながり」が重視されるべき。名称も施設の理念を反映したものが大切とされる。
- 海外事例：ヘルシンキの「オーディ図書館」やニューヨークの図書館が参考例として挙げられ、居場所としての役割を拡大している図書館の形が紹介される。

6 学校の現状と将来予測

- 教員採用試験の低迷から、教育環境の大幅な変化が予測される。これにより、学校教育と地域の連携が深化する可能性がある。特に教員の労働環境改善と地域資源の共有化が重要課題に。
- 具体的な連携方法として、校長やキーパーソンを中心に事例を積み上げる形が主流

アドバイザー会議

第2回会議（9月24日）

■開催日: 9月24日(水) 10:00~11:30

■アドバイザー: 桑野教授、青山准教授、(株)イツノマ 中川さん

■事務局: 総合政策課(麻田、押川、野村、一木)、
図書館(海野、貴田)

■オブザーバー: アカデミック・リソース・ガイド 有尾さん

■会議の内容

1. 出席者紹介

2. これまでの経緯

(1) 第1回アドバイザー会議

(2) 議会報告

(3) 市民参画(日向ラボ・ラボ、語る会、アンケート)

(4) 先進地視察

3. 議事

(1) 基本理念・ビジョン・コンセプトについて

(2) 子育て支援機能について

4. 今後の予定

1. これまでの経緯について

●遊び場体験のコンセプトと参加者の反応は。

・屋内遊び場を要望する意見が多かったため、図書館複合施設に整備する予定の図書館、子育て支援、遊び場を実証実験で行った。

・「遊びと学び」をテーマに可動式遊具を配置し、動と静、体験をいれた。

・安価な紙コップが人気があったりと事務局の気づきがあった。

●造形遊びは、新聞紙とかでも十分でお金はかけずにできるものもあるが、遊びを教えるリーダーなどがいた方が望ましく、そのコストがかかる。

●遊びに対するスタンスを揃えることが重要。他の施設では、こどもの遊び場はボールプールとかぬいぐるみだけ置いてあるところもある。設備ハードは最小限でいいと思う。

●どれくらい学びや成長に軸足を置くかがポイント。どういうコンセプトで行うか、年齢によってかなり変わってくる

アドバイザー会議

(1)基本理念・ビジョン・コンセプトについて

- 利用者の対象は「市内」だけでなく「関係人口」に広げるべき。
- 市外や県外の人々も含め、図書館同士がネットワークでつながることで全国規模の連携が可能になる。
- 民間視点からは、目を引く明確なターゲット設定とわかりやすい言葉遊びが重要。
- 今まで図書館に来たことがない人が、行きたくなるようなビジョン。「おにクル」「みるる」など、市民が直感的にワクワクする具体的なビジョンが必要。
- 「圧倒的に文化がない」という現状の不満を解消する刺激的で新鮮なビジョンを掲げるべき。
- 「人づくり」「地域づくり」「まちづくり」といった言葉は似通っているため、コンセプトはもっとシンプルにまとめるべき。コンセプトを決めすぎず、柔軟に運用することも大切。

(2)子育て支援機能について

- 子育て施設集約することで図書館の融合はどういう考え方なのか。既存の枠組みを超えた「まったく新しい融合」であってもよいのでは。
- 現状の案は単なる子ども支援機能と図書館が「引っ越し」するだけの感じられる。50年後も利用される施設になるため、時代遅れリスクを回避するための改革が必要。
- 不登校児が約15%いる現状に対応し、図書館が「サードスクール」として機能する可能性を示唆。
- 天理市のアートスクールや居場所づくりの事例のように、大規模投資に見合う課題解決機能の実装が求められる。
- AIを活用した選書システム（例：ヨンデミー）により、読書意欲の低い子どもにも対応可能。
- 遊び場は有料化せず、より開放的で無料の場にすべき。

2 これまでの経緯

議会全員協議会

2 これまでの経緯

市民参画

市民参画 (日向ラボ・ラボ)

HYUGA LABO

日向ラボ・ラボってなに？

みんなで創る新しい図書館

HYUGA LABO
HYUGA LABO LABO

日向ラボ・ラボは
市民の皆さんと新しい図書館複合施設の整備を目指す市民参画型の共創プロジェクトです。

新しい図書館の整備に向けて

市民のみんなが **やってみたいこと** を共に試して創っていく場所

新しい図書館の使い方を話しながら **実証実験** する場所

HYUGA LABO
実証実験を支援する「LABORATORY」のLABOを築いて日向ラボ・ラボです。

日向ラボ・ラボこんなことやってるよ！

1
R7.7/5開催
「新しい図書館ってどんな場所になったら素敵だろう？」を話そう
参加者/111人

2
R7.8/8～10開催
移動図書館とこどもの遊び場をやってみよう
参加者/1,686人

3
R7.9/27開催
ものづくり体験ワークショップをやってみよう
参加者/29人

4
R7.11/29開催
若者の居場所づくりについて考えてみよう

5
R7.12/14予定
新築県小千谷市の新しい図書館のことを聞いてみよう

6
R7.1月予定
「図書館」と「市街地」の活性化について考えてみよう

みんなが新しい図書館に期待すること&やってみたいことを教えて！

- いろんなワークショップに参加してみたい
- 休日にとりあえず行きたいな図書館がある
- 子どもや若者が簡単に過ごせる場所になりたい
- 短歌や俳句、絵画など作品展示があると嬉しい
- カフェがあって軽食もできる図書館がいいな
- フリースペースで友達と勉強したい
- 子どもが楽しめる遊び場が併設してほしい
- 学びやリスニングに活用できるといいかも
- 子育て中に、はっと一息つけるスペースが欲しい

お問い合わせ 総合政策課 電話66-1001

市民参画 (第3回日向ラボ・ラボ 9月27日)



第3回

日向ラボ・ラボ

みんなで創る新しい図書館

創造の芽を育てよう
「新しい学び」の発見

市民アンケート等で要望の多い「カフェ」「体験ワークショップ」の実証実験を行うため、「中高生が行きたくなるカフェをつくろう!」をテーマに5つのチームに分かれて体験型ワークショップを実施します。

2025 9月27日(土)

📍 日向市役所1階市民ホール

対象 市内在住の中学生、高校生、大学生

日程 13:00~17:00 定員35名

ワークショップの申し込みはこちら / 

※A~Eチームの中から参加したいチームを第3希望まで選んで9/26水までに申し込んでください。申込量を超過した場合、抽選となりますので予めご了承ください。

A ブランドづくり

カフェのブランドづくりを体験! デジタル機材でグッズ制作!

● カフェの顔となるロゴの作成体験
● 3Dプリンターやレーザーカッター、カッティングプロッターなどを使ったグッズの制作

📍 日向市 Tjukrupe Coffee (デジタル工房 ツクレタ)

👤 参加者の声: 私たちがサポートします!

B メニュー開発

日向らしい「へべす」を使った、カフェメニューの開発体験

● カフェで販売する飲み物を考案、試作

📍 日向市 Tjukrupe Coffee (デジタル工房 ツクレタ)

👤 参加者の声: 私たちがサポートします!

C 空間デザイン

理想のカフェ空間をデザイン、CGバースで表現!

● 図書館にほしい理想のカフェ空間をCGバースやAI画像で制作

📍 日向市 株式会社イノマ (2級建築士)

👤 参加者の声: 私たちがサポートします!

D PR・発信

動画・映像制作を通して、理想のカフェを発信!

● 中高生に書くPRを考案
● 動画制作・映像づくり体験

📍 日向市 株式会社amaru (動画・WEB制作系)

👤 参加者の声: 私たちがサポートします!

E 衣装づくり

みんなが思わずたくなるエプロンをデザイン・制作!

● カフェの店員が着用するエプロンデザインの作成体験
● ミシン、刺繍体験

📍 日向市 株式会社イノマ (縫製・WEB制作系)

👤 参加者の声: 私たちがサポートします!

Work Shop

それぞれのチームをプロがサポート!

お問い合わせ 日向市役所 総合政策課
TEL.0982-66-1001 日向ラボ・ラボ



みんなで創る新しい図書館複合施設

日向ラボ・ラボ通信

学びの種をまき 創造の芽を育て 希望の実を結ぶ 市民のサードプレイス VOL.03

2025

9

第3回「日向ラボ・ラボ」を開催。今回の主役は中・高・大学生!

令和7年9月27日(土)に、新しい図書館複合施設の整備に向けた第3回日向ラボ・ラボを日向市役所1階市民ホールで開催しました。イベントでは、市民の皆さんから要望の多い「ものづくりを実際に体験できるワークショップ」を開催しました。

創造の芽を育てよう。新しい学びの発見。

体験ワークショップ テーマ「新しい図書館のカフェづくり」

市内の高校生を中心に集まった参加者が5班に分かれ、「新しい図書館のカフェづくり」をテーマにカフェの名前を考えました。

新しいカフェの名前は、「ひよっとcoffee」。

その後、プロの講師のサポートを受けながら、カフェで使用するブランドロゴやエプロン、へべすを使ったジュースの製作、カフェ空間のデザインや動画編集などを体験しました。

A ブランドづくり

カフェのブランドづくりを体験! デジタル機材でグッズ制作!

📍 日向市 Tjukrupe Coffee (デジタル工房 ツクレタ)

👤 参加者の声: ひよっとCOFFEEのグッズ制作。3Dプリンターやカッティングマシン、レーザー加工機を使って色々なグッズを制作しました。

B メニュー開発

日向らしい「へべす」を使った、カフェメニューを開発!

📍 日向市 Tjukrupe Coffee (デジタル工房 ツクレタ)

👤 参加者の声: 新メニュー「へべすオレインゴ」へべす、オレンジジュース、シナモンをミックス、名前は「梅のもの」にしています。

自分の意見を言うのが苦手な経験があったけど、こう言ったら伝わるかなとか考えながら発言していけるようになってよかったです。

人生で体験できないようなことを経験できて、自分の知らないことも知ることができて、とても楽しかったです。

お問い合わせ 日向市役所 総合政策課
TEL.0982-66-1001 日向ラボ・ラボ

C 空間デザイン

理想のカフェ空間をデザイン、CGバースで表現!

📍 日向市 株式会社イノマ (2級建築士)

👤 参加者の声: 平素からのCGバースをCGで表現しました。

D PR・発信

動画・映像制作を通して、理想のカフェを発信!

📍 日向市 株式会社amaru (動画・WEB制作系)

👤 参加者の声: 今日の様子を動画で発信。高画質の外観撮影を機材を使って撮影。撮った動画を1分ほどにまとめた。

E 衣装づくり

みんなが思わずたくなるエプロンをデザイン・制作!

📍 日向市 株式会社イノマ (縫製・WEB制作系)

👤 参加者の声: 一枚の布からエプロンづくり。アイデアを出し合い、ブリーチエプロンを作りました。

期待すること

- カフェや軽食が楽しめる
- 友達と集まって話せる場所
- 居心地の良い場所
- 勉強できるスペース

体験したいこと

- 料理・お菓子づくり
- 3Dプリンターなどのモノづくり
- 動画・アニメーション制作
- 楽器・音楽制作

第4回 日向ラボ・ラボのお知らせ

✓ 日時 11月29日(土) 13時30分~16時00分

✓ 場所 日向市役所1階 市民ホール

✓ 内容

第1部 青山映兵さんの講演会(約1時間)

※ 対象: どなたでも参加できます。

第2部 ワークショップ「若者が行きたくなくなる図書館」

※ 対象: 中学生以上~29歳まで 要申込

日向市役所 総合政策課

人と自然が響き合い、にぎわいあふれる 共創のまち日向

☎ 0982-66-1001

✉ saougou@hyugacity.jp

市民参画 (第4回日向ラボ・ラボ 11月29日・12月14日)

みんなで創る新しい図書館

HYUGA LABO LABO 日向ラボ・ラボ 第4回

新しい図書館複合施設の整備に向けて取り組む日向ラボ・ラボ。
今回のテーマは「子ども・若者×居場所×図書館」。
若者の求める「居場所」や居心地の良い図書館を実現するために、
必要な「モノ」や「コト」、「ヒト」について一緒に考えましょう。

希望の実を結ぶ
新しい居場所を創ろう。

第1部 講演 申込不要 | 誰でも参加OK! | 2025
11/29 土
13:30~16:00
日向市役所1階市民ホール

子ども・若者×居場所×図書館

13:30~14:20
文教大学 人間科学部 准教授
講師 **青山 鉄兵さん**
社会教育学や青少年教育論を専門分野とし、文部科学省生涯学習調査官や国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター副センター長などを歴任。2023年よりこども家庭庁「こどもの居場所部会」委員。

中学生~29歳以下限定 |
第2部 ワークショップ 事前申込
若者が来なくなる図書館

14:30~16:00
株式会社 イツノマ
進行 **中川 敬文さん**
東京でまちづくり会社UDS㈱を経営。キザニア東京、神保町ブックセンター等企画・プロデュース。2020年都農町移住、㈱イツノマ起業。都農中学校の総合学習・地域クラブ運営。宮崎県内でこども参画まちづくりを実践中。

3 チームに分かれて新しい図書館のアイデアを出そう!!

1 読みたくなる本
2 ほしい機能・設備
3 イベント

ワークショップの申し込みはコチラ！
申込締切：11月21日(金)まで

日向ラボ・ラボ とは？
日向ラボ・ラボは、市民の皆さんと協働、連携し、互いに知恵や力を出し合いながら新しい図書館複合施設の整備を目指す市民参画型の共創プロジェクトです。新しい図書館複合施設の機能や使い方を実証しながら、実験の結果や市民の皆さんの意見を施設づくりに活かします。

お問い合わせ 日向市役所 総合政策課
TEL.0982-66-1001 日向ラボ・ラボ

みんなで創る新しい図書館

HYUGA LABO LABO 日向ラボ・ラボ 第5回

新しい図書館について
みんなで語り合おう
どんな形でも構いません
事前申込も不要です

新潟県小千谷市の
おぢや

2025
12.14 日
14:00~16:00
会場 日向市役所1階市民ホール
進行役 アカデミック・リソース・ガイド㈱
李明喜さん、有尾柚紀さん

令和6年9月に開館した新潟県小千谷市の図書館の事例を学び、
オンラインのゲストスピーカーと日向市の参加者で意見交換を
しながら新たな図書館について語ります。

オンラインゲストスピーカー紹介
図書館が生まれるまでの苦闘や、図書館関係者の新しい取り組みを語ってまいります！

小千谷市議員 **土田 昌史さん**
「ホントカ」の複合施設全体の整備・運営を担当。

小千谷市議員 **町田 祥子さん**
「ホントカ」の図書館の整備・運営を担当。

小千谷市議員 **星野 哲也さん**
市民として開館前から携わる。開館後は有志のDJイベントにも参加。

日向ラボ・ラボ とは？
日向ラボ・ラボは、市民の皆さんと協働、連携し、互いに知恵や力を出し合いながら新しい図書館複合施設の整備を目指す市民参画型の共創プロジェクトです。新しい図書館複合施設の機能や使い方を実証しながら、実験の結果や市民の皆さんの意見を施設づくりに活かします。

お問い合わせ 日向市役所 総合政策課
TEL.0982-66-1001 日向ラボ・ラボ

2 これまでの経緯

新しい図書館を語る会 (意見交換会)

3 策定作業の進捗状況

図書館・生涯学習チーム

(1) 蔵書規模について

■蔵書規模

■日向市立図書館の蔵書数 **175,931冊** (市民一人あたり 3.12冊)
県内8位※開架 **100,209冊** (図書館**74,173冊** 公民館図書室 26,036冊)

■同規模自治体と比較すると平均的。人口減少を考慮すると、蔵書規模は同程度でよい。

■新しい図書館では、以下の視点で計画的な準備を進める。

- ①開架冊数の増加
- ②ゆとりある書架スペース
- ③新しい図書との入れ替え等

⇒ 《arg設定:数値目標》

1. 人口1人あたり蔵書数現状3.07冊→目標3.30～5.00冊
2. 開架率現状49%→目標63～83%
3. m^2 あたり蔵書数現状124.7冊/ m^2 →目標77.4～104.8冊/ m^2



■コミュニティ・アーカイブ・ラボラトリー
“地域や関心・属性などさまざまなコミュニティについて、そこに関わる人々が中心となり記録・収集する取り組みを「コミュニティ・アーカイブ」と呼び、その意味や可能性について探る仮想の研究室です。”

(1) 蔵書規模について

⇒ 《arg提案：目標水準に基づく蔵書規模の算出》

1. 長期目標（2050年度）の基本蔵書数の算出

目標総蔵書数（2050年度）= 44,000人 × 5.00冊/人 = 220,000冊

2. 開架率の算出 目標開架冊数（収容可能量）= 194,000冊 × 開架率80% = 155,200冊

3. 蔵書規模からの専有面積の算出

図書館専有面積 = 蔵書数194,000冊 ÷ 77.4冊/m² = **2,506m²**（図書館諸室を含む面積）

目標開架冊数（収容可能量）= 194,000冊 × 開架率80% = 155,200冊

⇒ 《arg提案：段階的な蔵書規模目標》

開館時（2031年度） 170,100冊

中期目標（2040年度） 184,700冊

長期目標（2050年度） 194,000冊

arg提案

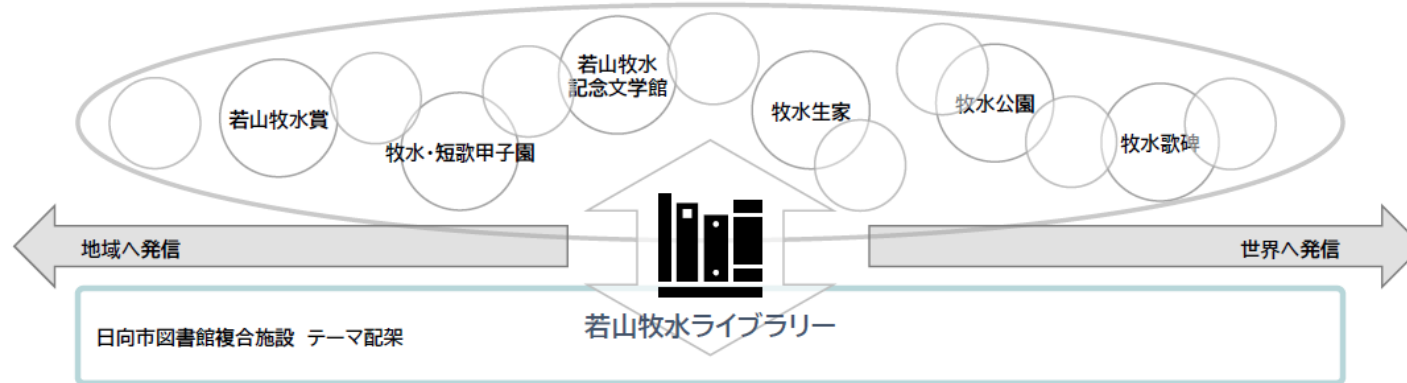
＜目標＞「知る・学ぶ・創る・参加する」の循環を生み持続させる
図書館を拠点に、市民が主体的に関わり続ける。
新しい学びと創造の生態系をつくるための日向市ならではの
プログラム

(2) 若山牧水ライブラリーの整備

事業者提案

若山牧水ライブラリーの可能性

- テーマ配架:市民の生活や興味関心に寄り添い、テーマごとに本を配置する図書館拡張のためのアプローチ
- テーマ配架における若山牧水ライブラリーの位置づけ:日向市の文化的アイデンティティを象徴する特別なテーマであり、テーマ配架の中でも重要な存在
- 間口の広さと×深さ:初心者から専門家まで誰もが入りやすく、奥深い学びにも応えられる構成
- 情報資源のキュレーション:若山牧水に関する館内外の資料(書籍・人物・施設・活動等)を一元的に収集し、関連づけて提供する役割
- 館内での情報整理・可視化:収集した情報を館内で体系的に整理・展示し、館内で、日向市内で、国内で、何がどこにあるか一目で分かるように可視化
- ハイブリッドメディア:QRコード等で館内資料とオンライン情報を結びつけ、館外からも関連情報にアクセス可能
- コンテンツツーリズム:須賀川市の特撮文化(円谷英二ミュージアム)の例のように、牧水を軸とした文化発信が観光誘致のきっかけにもなり得る
- 多様な関心への展開:牧水を起点に、自然・旅・酒・山・恋愛・現代短歌など多彩なテーマへ市民の関心が広がっていくような体験のデザイン



<日向市の意見>

- 若山牧水記念文学館との役割分担を明確にしたい。
- 牧水や短歌に興味を持つきっかけとなるようなライブラリー構成としたい。
- 牧水短歌甲子園や牧水短歌賞など、近年の短歌ブームの作品も展示することで若い人にも興味を持ってもらえる工夫が必要。
- 現在の図書館にも牧水の資料を展示しているが、貴重資料のため管理方法も検討する必要がある。

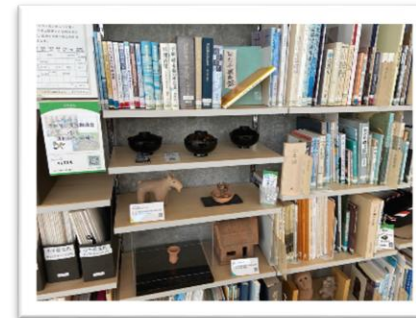
(3) 郷土資料・文化財の展示機能について

<文化財の展示機能>

- ✓ 文化財は「保存」と「活用」が重要であり、図書館複合施設では「文化財の活用」を行う。
- ✓ 図書館複合施設における文化財の展示機能としては、小さな専有スペースを使った「スポット展示」又は共有スペースを使った「企画展示」で文化財の活用を行う。（大規模な専有スペースが必要な「常設展示」は実装しない）
- ✓ 展示機能の配置は、図書館の入口など人が必ず通る場所に配置することが効果的。
- ✓ 一方、展示を行う文化財の選定については、現状の「文化財の保存」の状況を踏まえ、何を保存し、どう活用していくのかといった基準が必要。
- ✓ その他、文化財の保存機能については、現状の保管状況が芳しくないため、既存の公共施設の整理や見直しも含めて別途協議が必要。（東郷文化センターは雨漏れ、温度・湿度管理機能がない）

<郷土資料の展示機能>

- ✓ 郷土資料の展示機能の在り方については継続した検討が必要。



<デジタルアーカイブの活用>

- ✓ 文化財に関するデジタルアーカイブは、まずは動画アーカイブについて取り組む。その他コンテンツは取組に必要な事項やスケジュールについて整理を行いながら順次取り組む。

<参考> 荒尾市図書館



郷土の特色（祭り衣装の展示）

干潟をイメージした
児童コーナー、船型の書架

（上）小代焼きの海の生き物
（下）郷土資料、展示コーナー

<参考> 菊池市図書館・荒尾市図書館

(左) 菊池市図書館

- ・市内の文化財の写真と説明文を掲載。
- ・タッチパネルで分野を選択できる。
- ・コンテンツは更新を行い、随時追加している。



(右) 荒尾市図書館

- ・市内各地区で行われる郷土芸能の踊りなどを動画で掲載し、説明文を字幕で表示。
- ・年に1回にしか見ることのできないものなどが確認できる。



3 策定作業の進捗状況

子育て支援チーム

事業分野・推進事業等について

＜事業分野＞

（仮称）みんなで支え育て 育ちあうまちひゅうが事業

【推進事業】

- （１）こども家庭センターひなたの森（健康管理センター）※移転
- （２）母子保健（健診）事業（健康管理センター）※移転
- （３）地域子育て支援拠点事業（商工会議所 1 階）※移転拡充
- （４）一時預かり機能※新規
- （５）ファミリー・サポート・センター事業（商工会議所 1 階）※移転拡充
- （６）屋内遊び場 ※新設

保育所等で行われているリフレッシュや冠婚葬祭の為の「一時預かり」と、複合施設でのイベント等による短期利用の「一時預かり」を考えている。

※地域子育て支援拠点事業：地域子育て支援センター事業（一般型・連携型）等の総称

屋内遊び場（新設）機能の集約

統合「たんぽぽきっず（57㎡）



（新設）体を動かせる遊具



（新設）知育玩具



＜屋内遊び場＞

最大 400㎡程度

ターゲットは未就学児

可動式。「動」と「静」の遊具。

ごっこ遊び、体験型ワークショップ
親子で読書。読み聞かせができるス
ペースを設ける。

3 策定作業の進捗状況

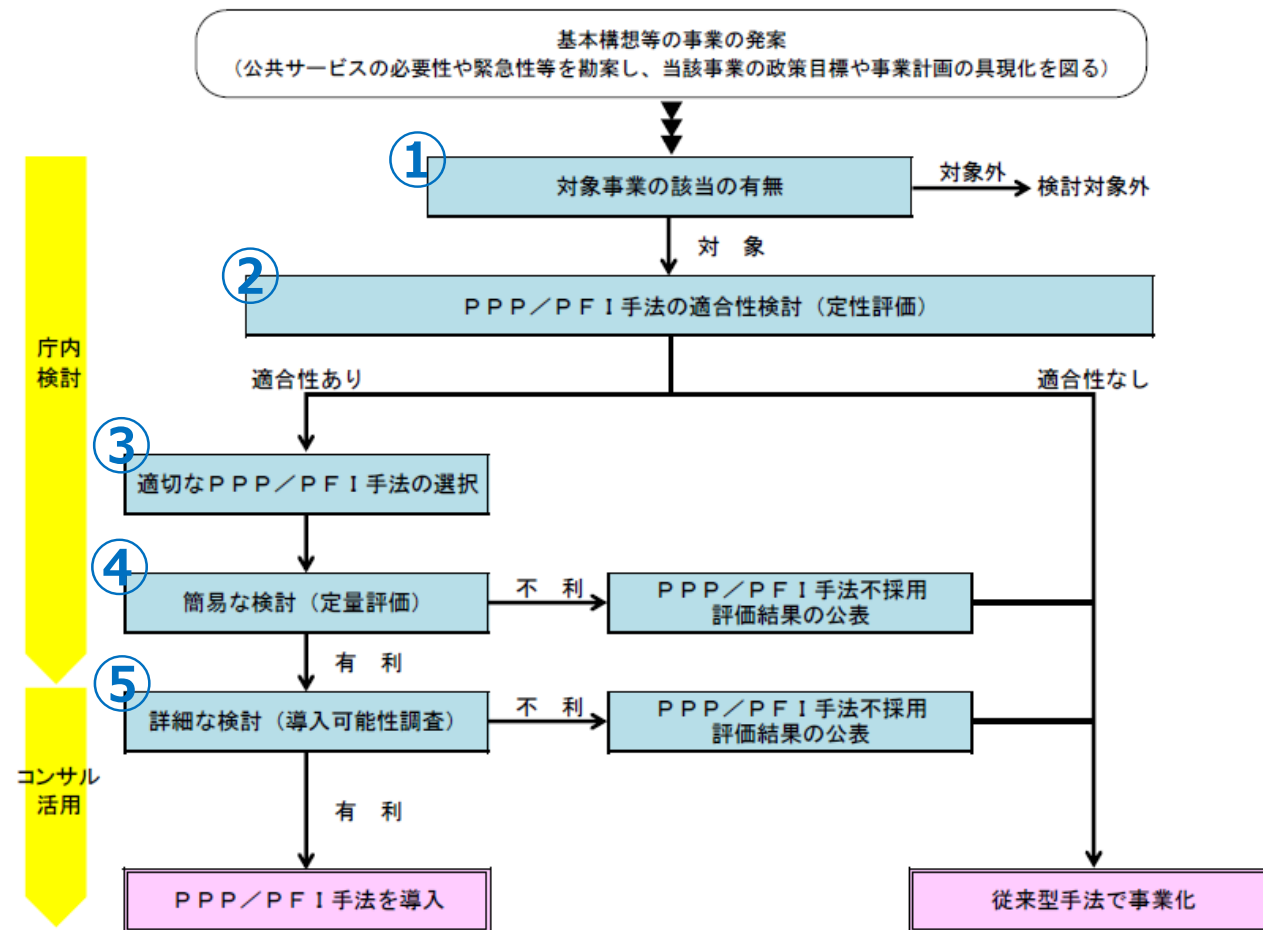
複合施設チーム

3 策定作業の進捗状況

事業手法チーム

公共施設等におけるPPP／PFI導入ガイドライン

ガイドラインに基づく検討の流れ



① 対象事業の該当の有無

② PPP／PFI手法の適合性検討
(定性評価)

③ 適切なPPP／PFI手法の選択

④ 簡易な検討 (定量評価)

⑤ 詳細な検討 (導入可能性調査)

4 議事

(1) ビジョン・コンセプトについて

理念、ビジョン、コンセプトの関係性

Arg
提供資料

- 図書館複合施設の整備を進めていくにあたり、前頁に記載の基本理念に基づき、施設全体の目指すべき方向性やテーマ(コンセプト)を固めておくことで、具体的に施設に導入する機能や取り組みを検討する際の指針と共通認識をつくることができる。
- 下図の図書館複合施設における事業や機能、サービス等の検討を、理念、ビジョン、テーマ(コンセプト)を念頭に置きながら進めることで、施設全体の方向性を捉えた具体化が図りやすくなる。

【理念】※基本方針で整理済み

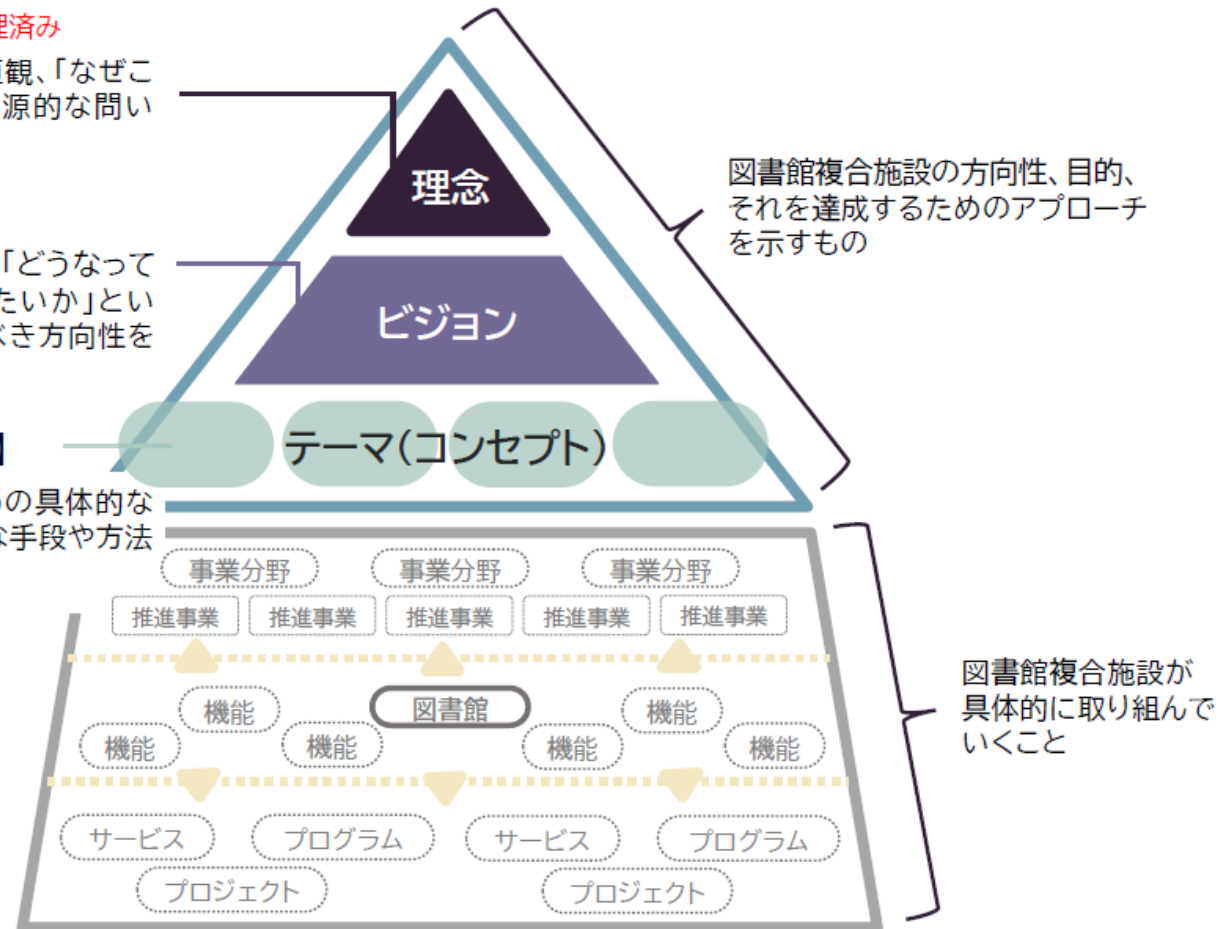
根本的な存在意義、価値観、「なぜこれを行うのか」という根源的な問いに対する答えを示す

【ビジョン】

理念に基づき、将来的に「どうなっていたいか」「何を達成したいか」という理想的な姿や目指すべき方向性を示す

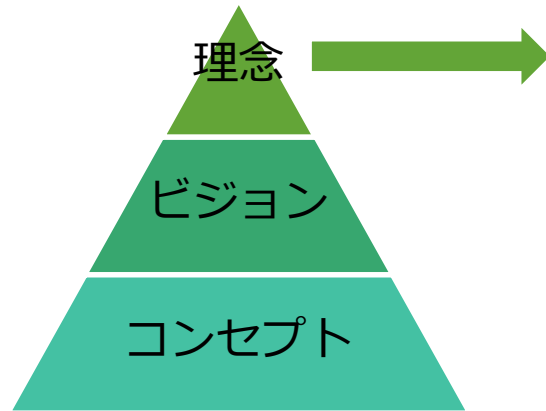
【テーマ(コンセプト)】

ビジョンを実現するための具体的なアプローチとして、主要な手段や方法論を示す



基本理念

※「日向市図書館複合施設基本方針」より



(1) 図書館複合施設の基本理念

、新しい図書館複合施設は、「知の拠点」である図書館を核として、こどもや子育て世代、若者をターゲットに定め、学びや交流の場や子育てを支える環境づくりを目指します。また、市民の「第三の居場所（サードプレイス）」として、誰もが安心して快適に過ごせる場所を提供します。

以上の背景から、新しい図書館複合施設は、「学びの種をまき、創造の芽を育て、希望の実を結ぶ 市民のサードプレイス」を基本理念とし、すべての世代が集い、成長できる場を提供します

「学びの種をまき、創造の芽を育て、希望の実を結ぶ 市民のサードプレイス」

方針1「学びの種をまき」：人々に学びの機会やきっかけを提供し、知識の基礎を築く

市民一人ひとりの知的好奇心を刺激し、学習意欲に応える多様な学びの機会を提供します。図書館の豊富な蔵書や資料に加え、子育て支援施設や遊び場を備えることで、子どもたちが遊びながら自然に学べる環境を整え、知識の基礎を築き、学びの重要性を広めます。

方針2「創造の芽を育て」：学びを通じて得た知識をもとに、創造性や新たなアイデアを育む

様々なワークショップや体験型プログラムが開催できる場所を設け、実践的な学びと創造の場を提供することにより、創造性や新たなアイデアを育みます。市民の皆さんが個々に持つ創造性や革新的な思考を促進し、新しい価値の創出を支援します。

方針3「希望の実を結ぶ」：学びと創造の成果が、個人や地域の未来への希望や発展につながる

学びと創造のプロセスを通じて得られた成果が、個人の成長だけでなく、地域社会全体の発展や未来への希望につながることを目指します。市民の皆さんの交流と協働を促進し、世代や分野を超えたネットワークを築くことで、コミュニティの絆を深め、持続可能なまちづくりを実現し、未来への希望と発展につなげます。

方針4「市民のサードプレイス」：誰もが安心して快適に過ごせる「第三の居場所」

家庭や職場・学校以外の「第三の居場所（サードプレイス）」として、市民が自由に集い、安心して快適に過ごせる場を提供します。世代や背景を問わず、誰もが利用できる開かれた空間として、市民が主役となり、共創により交流や情報交換の拠点を築きます。

ビジョン・コンセプトに関する意見

■委託事業者

「知の森づくり」多くの図書館で使用されている表現。

「日向市らしさ」が伝わるような表現にした方がいいのでは。

■アドバイザー

図書館に行ったことのない市民が行きたくなる、ワクワクするような表現の方がよいのでは。



ビジョン・コンセプトについては、これまでの基本方針、市民アンケート、ワークショップ、ラボラボの結果等を踏まえ、再検討とする。

ターゲット（こども、子育て世代、若者）を意識したビジョンが必要

（最終案）好きが見つかる私の居場所～ゆっくり流れるひなた時間～

- 第1回 日向ラボ・ラボ：ワークショップ参加者の意見より
「好きが見つかる図書館」×「毎日行きたいお気に入りの場所」
→「好きが見つかる私の居場所」
- 目指す姿
 1. **好きが見つかる**：学びや創造を通じて、個人の興味や関心（好き）を掘り起こし、新たな活動や自己表現（創造の芽）へつなげる機能を示す。
 2. **私の居場所**：理念の核である「市民のサードプレイス」を、より個人的で愛着のある場所（若者や子育て世代など、様々な人にとっての安心して過ごせる場所）として具体化する。
 3. **ゆっくり流れるひなた時間**：日向市の温暖な気候や自然といった地域特性を空間デザインに取り入れ、安心とくつろぎを提供する時間の流れを表現する。
- 具体的な価値・役割（内容の説明）

この施設は、単なる図書館や公共施設ではなく、「好き」という個人の想いや好奇心を尊重し、

 - ✓ 新しい知識や体験との出会い
 - ✓ 学びや活動の発展・深化
 - ✓ 仲間や情報の集約
 - ✓ 心からくつろげる空間

を、多世代・多様な市民が自由に享受できる“共創の場”です。
- 市民・利用者への寄り添い

子どもから高齢者まで、どなたでも気軽に訪れ、自分のペースで「好き」を見つけ、広げ、集め、くつろげる――そんな「自分の居場所」として、人生の様々な場面で寄り添い続けることが、この施設の基本理念です。

(コンセプト) 11/28日向市提案

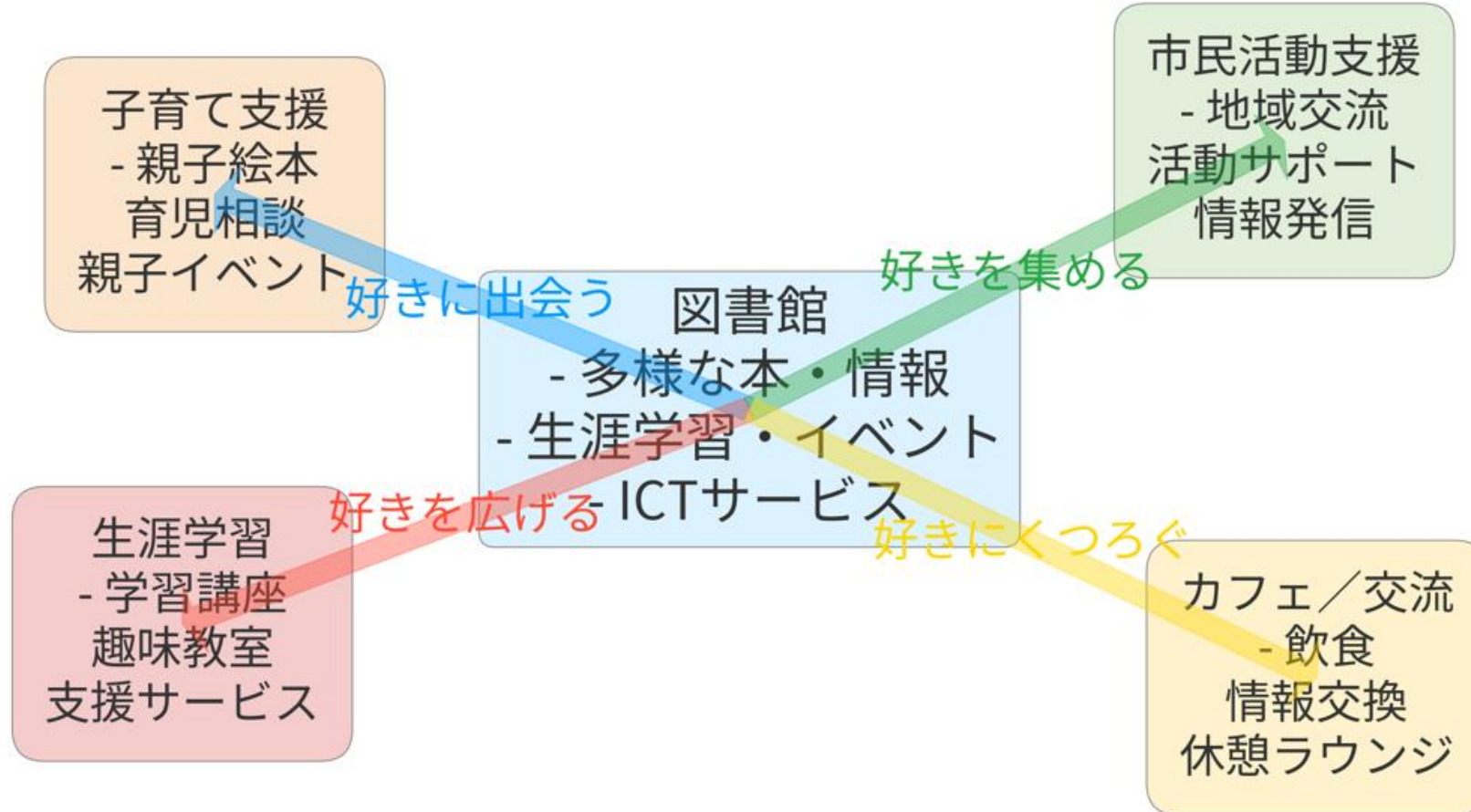
コンセプト	説明文	事業提案
出会う	ここでは、まだ知らなかった「好き」との出会いが待っています。多彩な本や体験プログラム、ワークショップを通じて、新しい興味やワクワクを発見できる場所です。はじめてのことにも気軽に挑戦できる環境を大切にしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別体験ワークショップ（科学、アート、音楽など） ・新刊や注目ジャンルの展示コーナー設置 ・「はじめての〇〇」入門講座（プログラミング、園芸、料理など） ・こども向け「好き発見ラボ」（遊びながら学べる体験型スペース）
広げる	見つけた「好き」をもっと深め、広げていく場です。専門的な資料や講座、交流の機会を通じて、興味を追求しながらスキルや知識を高められます。仲間と共に学び合い、好きの輪を広げることで、新たな発見や創造が生まれます	<ul style="list-style-type: none"> ・専門テーマの講座シリーズ（文学、歴史、テクノロジーなど） ・好きな分野の読書会・研究会の開催支援 ・地域の専門家やクリエイターによるトークイベント ・オンライン学習プラットフォームとの連携講座
つながる	同じ「好き」を持つ人々が自然に集まり、交流し、つながる場所です。趣味のグループやコミュニティ活動を支援し、情報交換や共同活動を通じて、地域のつながりと活力を育みます。多様な世代や背景の人が交わることで、新しい価値が生まれます。	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味・関心別サークル活動の支援・マッチング ・地域交流イベントの企画・運営（フェスティバル、展示会、発表会など） ・共創スペースの提供（ものづくり工房、シェアスタジオなど） ・SNSやコミュニティアプリを活用した情報発信・交流促進
くつろぐ	好きなことを楽しみながら、ゆったりと過ごせる心地よい空間です。読書や創作、リラックスできる環境を整え、誰もが自由に自分の時間を楽しめる「私の居場所」として、心豊かな時間を提供します	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なシーティングやリラックススペースの設置 ・カフェや軽食コーナーの運営 ・クリエイティブワークショップ（絵画、手芸、執筆など）の定期開催 ・静かな読書タイムや瞑想・リラックスプログラムの導入

複合施設の各機能と4つのコンセプトの連携イメージ

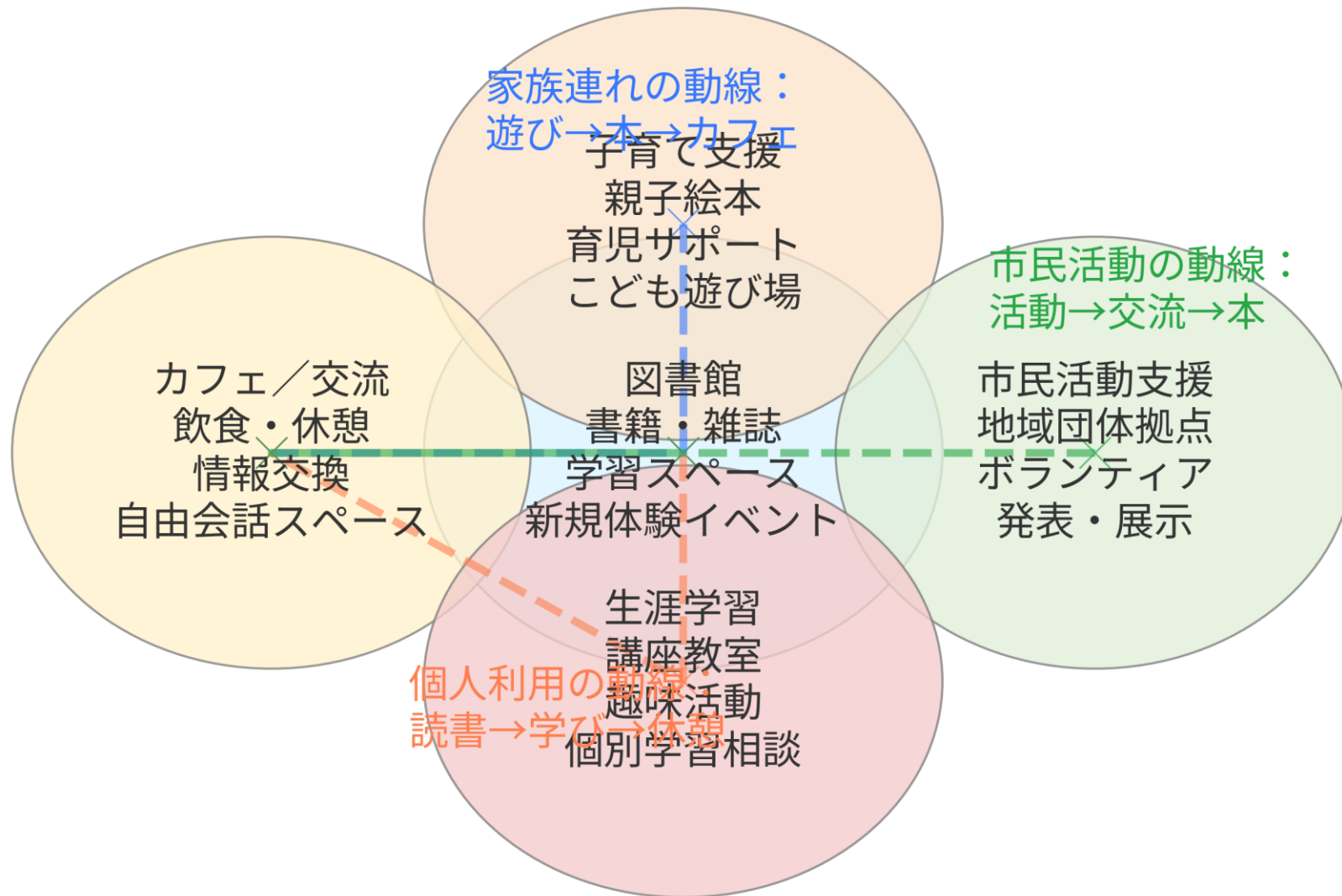
機能	好きに出会う	好きを広げる	好きを集める	好きにくつろぐ
図書館	多ジャンル蔵書・新たな本や知識との出会い	生涯学習・専門サポート	パーソナリ化情報・予約	読書・学習・滞在空間
子育て支援	親子で好きの発見	家族で好きを体験・拡大	子育て情報集約・共有	親子の安心・交流場
市民活動支援	地域活動で仲間・関心の出会い	活動・学びの発展支援	趣味・活動の仲間集め	くつろぎ交流・市民サロン
生涯学習	新しい知への探求	継続的な学びと好奇心拡張	課題・仲間・情報の集約	成熟世代の居場所・交流
カフェなど交流拠点	偶然の出会い・情報交換	自由な対話・刺激	情報・交流イベント	全世代のくつろぎ空間

サービス体系図：日向市図書館複合施設
～好きが見つかる私の居場所～

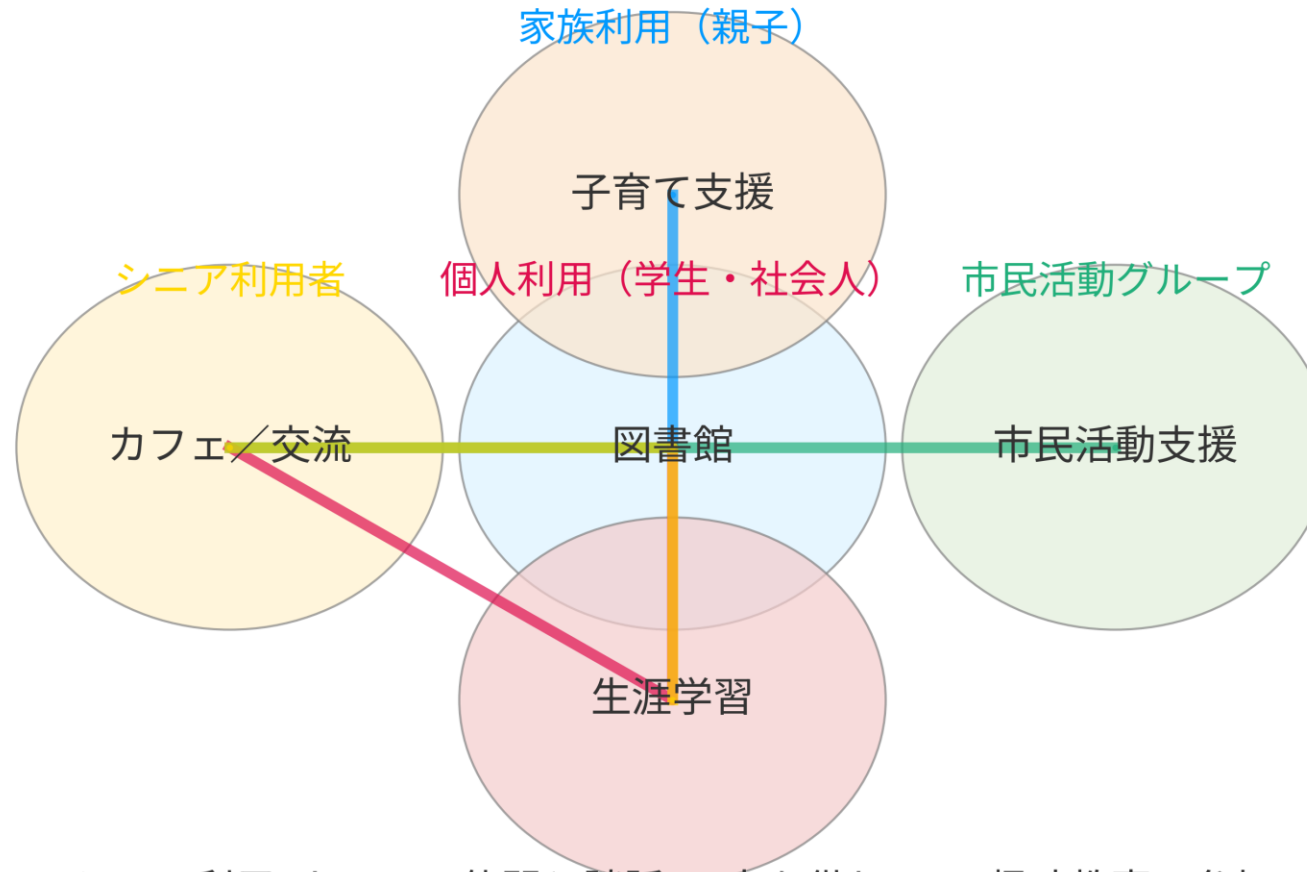
AI整理



ゾーニング計画案：図書館複合施設 空間配置と代表的動線



利用イメージ図：代表的利用者の施設内体験シナリオ



シニア利用: カフェで仲間と談話 → 本を借りる → 趣味教室へ参加

市民活動グループ: 集会・打合せ → 交流スペース → 企画展示・本の調べ物

個人利用（学生等）: 読書・勉強 → 学習講座参加 → ラウンジで休憩

家族利用（親子）: こども遊び場・絵本 → 一緒に本選び → カフェで軽食

9 協議事項

(2) 子ども・若者の居場所

検討すべき事項

○基本理念

「新しい図書館複合施設は、「知の拠点」である図書館を核として、**こどもや子育て世代、若者をターゲット**に定め、学びや交流の場や子育てを支える環境づくりを目指します。」

○ビジョン

「好きが見つかる私の居場所」 （仮）

基本理念やビジョンを踏まえ、「子ども」「若者」の居場所となるために、図書館（又は複合施設）が果たす役割（ミッション）を考える。

3 協議事項 (2) 子ども・若者の居場所

他市の事例・特徴

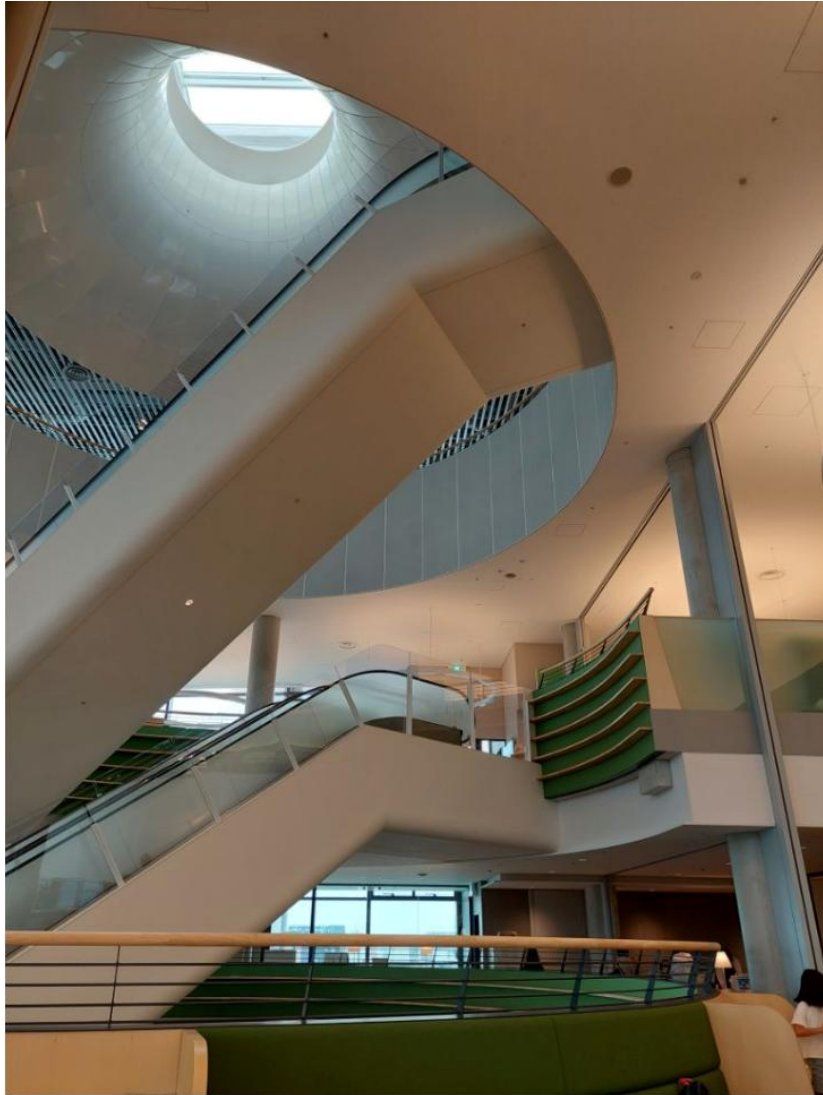
大阪府茨木市 茨木市文化・子育て複合施設おにクル



跡地エリア全体のキーコンセプト：
育てる広場

施設整備のコンセプト：
縦の道「日々何かが起こり、誰かと出会う」

大阪府茨木市 茨木市文化・子育て複合施設おにクル



岐阜県岐阜市 みんなの森ぎふメディアコスモス



私たちが大切にしたいこと:「子どもの声は未来の声」

私たちの図書館では、本を通じて子どもたちの豊かな未来へとつながる道を応援したいと考えています。就学前のお子さまから、小中学、高校に至るまで、子どもたちの育ちを末永く見守る場所でありたいと思うのです。だから、。来館されたみなさまも、どうぞその私たちは館内で小さなお子さまが少しざわざわしていたとしても、微笑ましく親御さんたちといっしょに見守りますような考え方をもった図書館だとご理解いただければありがたいです。そして、小さなお子さまのお父さま、お母さまにもお願いします。ここは公共の場所です。遊び場、運動場ではありませんので、公共の場所でのマナーをお子さまに教えていただく場としてもご活用いただければ幸いです。

みなさんでお互い様の気持ちを持ち寄る場所にしていきましょう



書架:大人用約150cm、こども用約120cmと低く、見通しのよい空間。

岐阜県岐阜市 みんなの森ぎふメディアコスモス



若者の興味を引くコーナーづくり



YA専用席
YANG(ヤングアダルト)交流掲示板
～心の叫びを聞け！！～

和歌山県海南市 海南nobinos



1F児童書 5万冊



1F 飲食可能エリア



2F 秘密基地



いろんな居場所



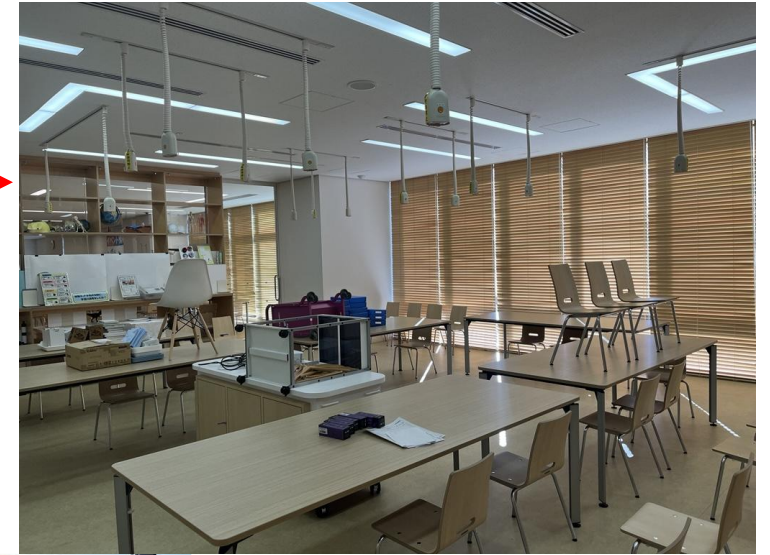
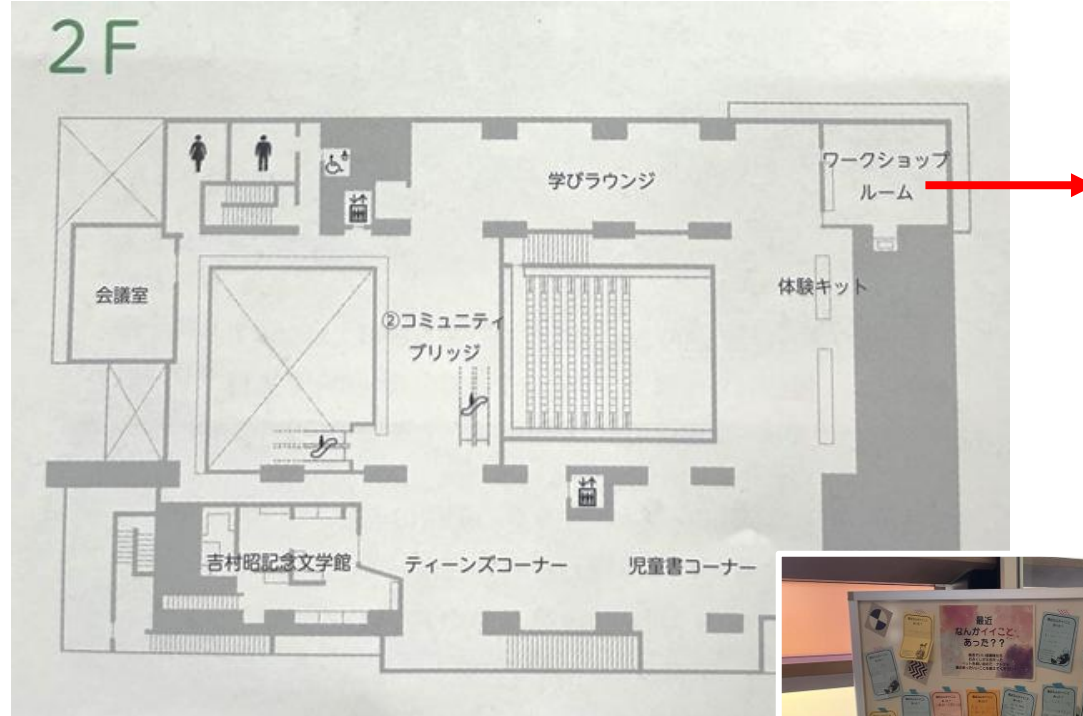
楽屋兼用会議室 卓球可能・壁がボルダリング

東京都荒川区「ゆいの森あらかわ」



柳田邦男えほん館。「絵本は人生に三度」。子どもから大人まで手に取りやすいように1階に配置。

東京都荒川区「ゆいの森あらかわ」



体験キット



ティーンズコーナー



新潟県長岡市 米百俵プレイス「ミライエ長岡」



美術や建築など、デザイン系の珍しい高価な
図書を配架している。



利用者が過ごしやすいよう、イスやテーブルも
様々なものが配置されている。

新潟県長岡市 米百俵プレイス「ミライエ長岡」



「ものづくりラボ」に3Dプリンター、レーザーカッターを配備。長岡市内には技術科大学や造形大学など4年生大学が4校あり、大学生が小学生に使い方を教えるといった光景が見られる。



天井が2階分の高さがあり、ゆったりとした雰囲気。イスやカーペットの色により明るく・落ち着いた印象

○宮前図書館TEENSルーム 実証実験（NPOカタリバ）

図書館と10代の居場所の親和性

図書館の空間やコンテンツは、10代の居場所の価値と親和性が高い

10代の居場所の価値



10代が思い思いに過ごせる居場所を持つことができる



「好き」や「やりたい」を見つけることができる



見つけたことを探究したり、アクションを起こすことができる

図書館の機能



空間

（閲覧スペース、ロビー、自習室、ホール、etc）

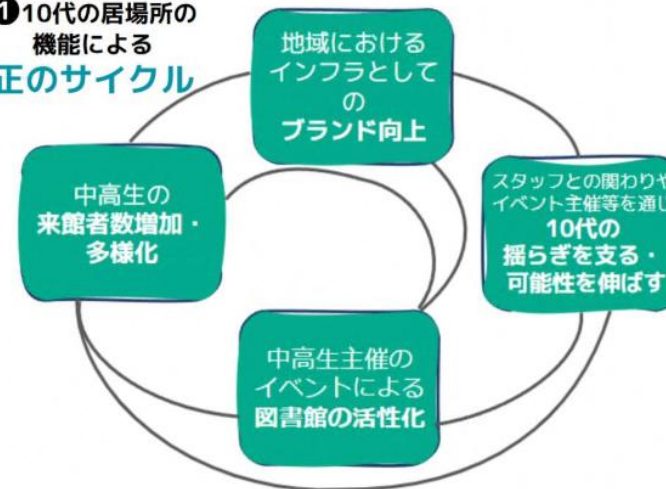


コンテンツ

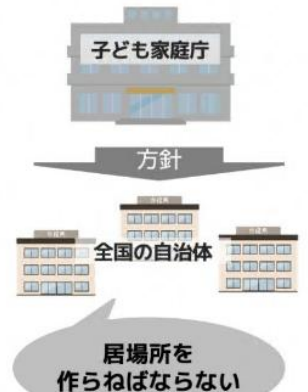
（書籍、映像、学習コンクール等のプログラム・イベント、etc）

図書館にとっての10代の居場所機能を持つことのメリット

① 10代の居場所の機能による 正のサイクル



② 社会・行政の要請に応える



図書館に“10代の居場所”を開く意義とは？現場担当者、専門家と考える、公共施設における居場所事業の可能性

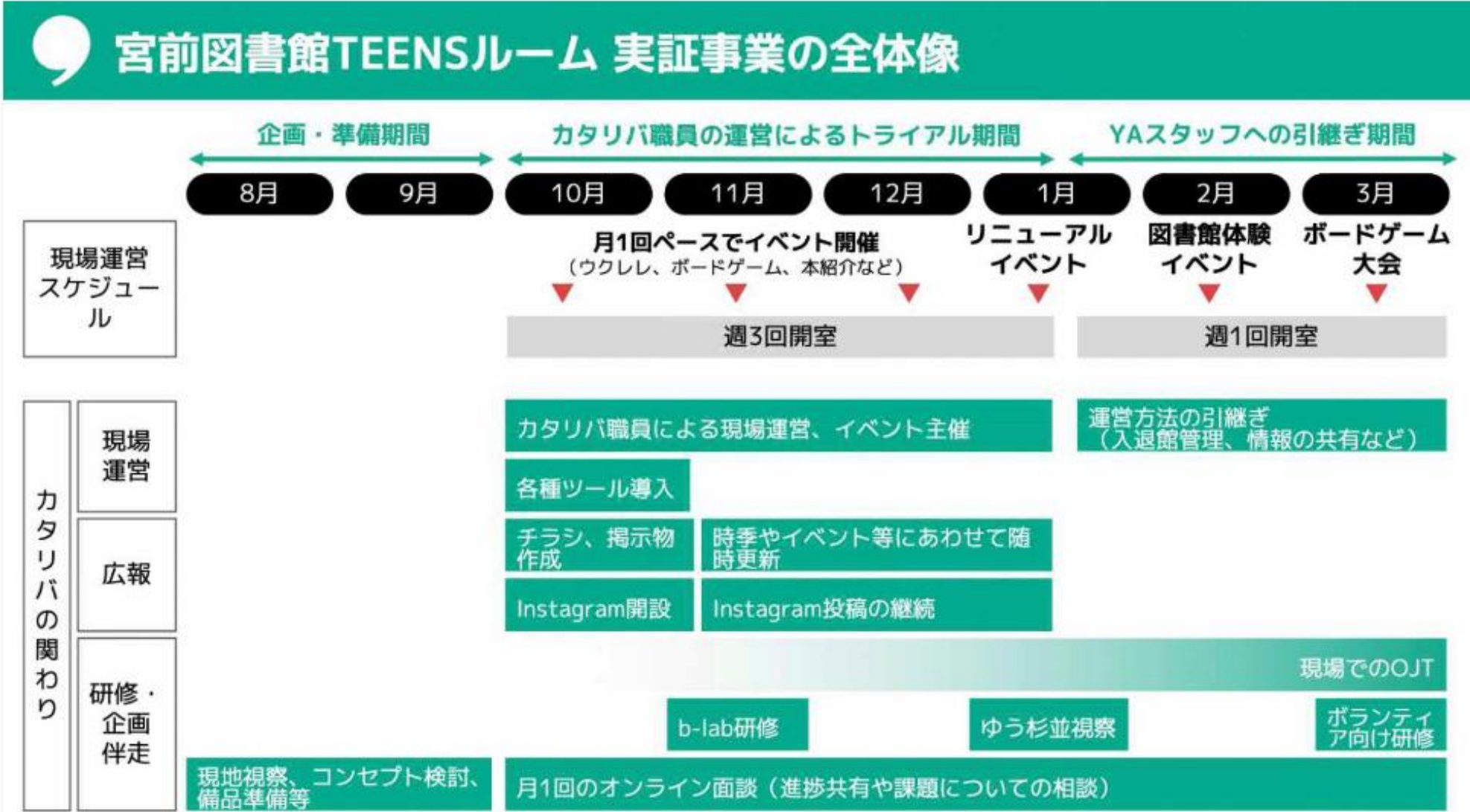
カタリバユースセンター起業塾事務局：野村美里さん 講演資料より

<https://www.katariba.or.jp/magazine/article/report250609/>

パネルディスカッション 登壇者のご紹介

パネラー	パネラー	パネラー	モデレーター
文敬大学人間科学部 准教授 青山鉄兵さま	株式会社 図書館流通センター 長田由美さま	認定NPO法人 カタリバ 米田瑞美	認定NPO法人 カタリバ 藤原幹太

○宮前図書館TEENSルーム 実証実験（NPOカタリバ）



○宮前図書館TEENSルーム 実証実験（NPOカタリバ）

- ✓ 中高生を対象とした宮前図書館の「TEENSルーム」の開室準備が始まったのは、2024年8月。カタリバはこれまでの知見を生かしながら、居場所の空間や取り組みの設計を支援してきました。10月の開室から3カ月間はカタリバのスタッフが現場の運営に関わり、次の3カ月は図書館の司書、ボランティアの方々に運営を引き継いでいきました。
- ✓ 宮前図書館は3階建てで、1・2階に図書コーナー、3階には読書や学習のための読書室、講座室があります。実証期間中は、TEENSルームは空いている時間の多い講座室を利用し、月、水、土に開室しました。
- ✓ 自習や交流のためのスペースを提供し、子どもたちはおしゃべりをしながら学習したり、コミックやボードゲームなどを手にくつろいだり。スタッフは、その姿を見守るほか、子どもたちからの悩み事や進路の相談に乗ることもありました。



令和6年(2024年)12月19日

図書館の新たな活用方法 10代の居場所をつくる実証プロジェクトが始動

10代の居場所を「図書館」に 東京都杉並区の図書館で実証事業開始

株式会社図書館流通センター(代表取締役社長:谷一文子、以下「TRC」)は、認定特定非営利活動法人カタリバ(本部:東京都中野区、代表理事:今村久美、以下「カタリバ」)が行っている【全国に10代の居場所がつけられる未来を目指したインキュベーション事業「ユースセンター起業塾」】において、図書館をユースセンター(10代の居場所)として活用するカタリバの実証事業に協力します。

全国に約3,330館ある公共図書館のうち、598館で業務委託と指定管理者等の図書館受託運営業務を行っているTRCが運営する図書館で、カタリバが実証事業を行います。今後は全国の自治体等と協働し、地域に根ざした持続可能な子どもの居場所支援としての展開を目指しています。

図書館実証プロジェクト概要

- ・実証期間: 2024年10月～2025年1月
- ・場 所: 東京都杉並区立図書館(TRC運営館)
- ・開催日程: 週3日 17:00-20:00
- ・参加対象: 13歳～18歳(中高生世代)
- ・参加費: 無料
- ・コンセプト:
「学習の合間に気軽に立ち寄り、心身をリフレッシュできる場」
「同世代が集い、新たなつながりが生まれる交流の拠点」
- ・内容:
- 中高生同士が、ボードゲームやウクレレなどを媒介として交流し、気軽に会話できる環境を提供
- 中高生の声を反映し、ウクレレ練習会、ボードゲーム大会、「推し」を語る会など、様々なイベントを開催
- 自習スペースを開放し、「友達と話しながら勉強したい」といったニーズにも対応
- スタッフによる学習サポートや進路相談にも応じ、幅広いニーズをサポート



お問い合わせ:株式会社図書館流通センター 広報室 contact@mail.trc.co.jp
お問い合わせ:カタリバ(担当:阿部) <https://www.katariba.or.jp/report/>

人口減少×公共施設再編の先にある、10代の居場所としての新たな価値創出 「ユースセンター」とは

高度経済成長やふるさと創生事業をきっかけに、日本の公共施設数は増加し、2025年には約7割の施設において、大規模改修工事を要する状態になると予想されています。(*2015年 鳥取市公共施設白書による)加えて、地方を中心とした人口減少により、従来想定していた公共施設の需要の低下などを理由に施設廃止や機能統合による効率的な運用や、新たな価値の創出が模索されています。

一方で昨今、公共の場においても繁華街に集まる子どもが犯罪被害に巻き込まれたり、飲食店とのトラブルなどの報道が増えています。このような状況は、子ども個人が抱える課題ではなく、前述の社会的背景や変化により「居場所をなくした子ども」が増えたとも捉えられ、社会的な課題として、多くの自治体が取り組む重要事項となりつつあります。このような社会の現状に対して、どのような状況の子どもでも安心して過ごせる場所や可能性を広げていける環境をつくるため、こども家庭庁が中心となり「こどもの居場所づくり」を推進しています。

なかでも「ユースセンター」は10代の子どものための、家でも学校でもない、第三の居場所(サードプレイス)であり、意欲と創造性を伸ばす関わりが生まれる場所として注目されています。

「図書館」を居場所へ。10代が意欲と創造性を育む場を目指す、実証事業をスタート

カタリバでは2011年の東日本大震災をきっかけに、被災地での子どもの居場所づくりを原点に全国に居場所を展開してきました。2021年からは、全国に10代の居場所がつけられる未来を目指したインキュベーション事業「ユースセンター起業塾」を運営しています。2024年より継続的な地域のユースセンターの拡大と成長支援、ユースワーカーの育成支援などに取り組んでいます。そのなかで新たに、自治体が運営する公共施設が「ユースセンター」としての機能を担うことで、諸課題の解決に向けた価値創出を模索してきました。

この度TRCの協力により、東京都杉並区の公共図書館にてユースセンター活用の実証事業をスタートしました。

認定特定非営利活動法人カタリバとは

どんな環境に生まれ育った10代も、未来を自らつくりだす意欲と創造性を育める社会を目指し、2001年から活動する教育NPOです。高校への出張授業プログラムから始まり、2011年の東日本大震災以降は子どもたちに学びの場と居場所を提供するなど、社会の変化に応じてさまざまな教育活動に取り組んでいます。

設立:2001年11月1日 代表:代表理事 今村久美 本部所在地:東京都中野区中野5丁目15番2号

事業内容:高校生へのキャリア学習・プロジェクト学習プログラム提供(全国)/被災地の放課後学校の運営(岩手県大槌町・福島県広野町)/災害緊急支援(全国)/地域に密着した教育支援(東京都文京区)/困難世帯の子どもに対する支援(東京都足立区・全国)/外国ルーツの高校生支援(東京都)/不登校児童・生徒に対する支援(島根県雲南市・全国)/子どもの居場所立ち上げ支援(全国)

URL: <https://www.katariba.or.jp>

株式会社図書館流通センターについて

書誌データベース(TRC MARC)の作成と販売、図書館向けの装備図書等の販売と、全国に約3,300館ある公共図書館のうち598館で、業務委託と指定管理者等の図書館受託運営業務を行っています。学校図書館の支援業務や、電子図書館事業やデジタルアーカイブ事業をはじめ、軽自動車の移動図書館車LiBOON(リブーン)など、図書館に関わるさまざまな機器・用品等の販売も行っています。

お問い合わせ:株式会社図書館流通センター 広報室 contact@mail.trc.co.jp
お問い合わせ:カタリバ(担当:阿部) <https://www.katariba.or.jp/report/>

○宮前図書館TEENSルーム 実証実験（NPOカタリバ）

宮前図書館は周辺に小中学校があるため、もともと中高生の利用率が高く、試験前には読書室で自習をしに来る中高生も数多く見られました。こうした中で、宮前図書館館長の小野貴士氏は、「私語厳禁の読書室以外に、話しながら学習したり、グループワークができたりする場所があってもいいのでは、と考えていた」と言います。

「実際に、TEENSルームはグループ学習のニーズを持つ子どもたちに特に喜ばれ、もっと開室してほしいという声も届いています。ただ、図書館員の中には『TEENSルームは図書館や図書館員がやる仕事ではないのでは』『中高生とどう接すればいいのかわからない』と話す者もあり、難しさも感じています」（小野氏）

現在、毎週水曜日に開室しているTEENSルーム。担当者である司書の須藤凜花さんは、中高生の呼び込みにも課題感を感じています。

「講座室は場所が奥まっているためポスターやチラシだけでは気づきにくく、またSNSでの告知も利用者の年齢制限により届かないケースもあり、集客には苦戦しています」（須藤氏）

それでも「中高生と直接話せる場があることで、ニーズを捉えることができるようになった」と須藤氏。実証事業を通して、図書館の利用者が増え、図書館が地域の情報ハブとなっていくためにも、10代の居場所づくりは重要な役割を果たすだろうと話しました。

○柏市 中高生の広場

子ども・子育て支援施設「TeToTe」内

12/19 OPEN (木) 利用無料

「中高生の広場」は、中高生世代の皆さんが放課後や休日に自分らしく自由に過ごすことができるサードプレイス(第3の居場所)として12月19日にオープンします!!

フロア内を5つのエリアに分けて、それぞれのニーズにあった過ごし方ができる居場所です。

内覧会も開催
詳しくは裏面へ

柏駅前

中高生の広場がオープン!

カフェエリア
お茶やコーヒーを飲みながら、友達や大学生キャストと気晴しおしゃべりをフーターサーバーやスティック飲料約30種をご用意!

わいわいエリア
グループワークやサークル活動ができるデスクやチェア、大型モニターを配置

学習エリア
静かな環境で、試験前など学習に集中できる環境

ほっこりエリア
芝生スペースでハンモックにゆられたり、クッションによりかかって、ゆっくり・ほっこり・リラックス

プレイエリア
ソファやカウンターテーブルで本を読んだり、ボードゲームやカードゲームで新しい仲間をつくるきっかけに! 種類は約40種類

施設の概要

場 所
柏市子ども・子育て支援複合施設「TeToTe」内5階
千葉県柏市柏四丁目9番7号5階
(旧そごう柏店アネックス館内)
東武アーバンパークライン・JR常磐線 柏駅東口より徒歩約3分

時 間
開館日 15:30~20:30【火曜日から金曜日】
9:00~20:30【土曜日・日曜日・祝日(月曜日は除く)及び夏休みや冬休みなどの長期休暇】
休館日 月曜日及び年末年始(12月29日から1月3日まで)

ご利用方法
中学生、高校生及び同世代の方であれば誰でも無料でご利用いただけます。
初回利用時に、現地にて登録手続きを行います。
本人確認を行いますので、学生証等の身分が証明できるものをご持参ください。



○柏市 中高生の広場（利用者アンケート）

「『中高生の広場』があるのは、柏駅徒歩3分にある市の複合施設内の5階。ワンフロアをカフェエリア、わいわいエリア、ほっこりエリア、プレイエリア、学習エリアの5つに分け、さまざまな用途で使ってもらえるように工夫しました」（長谷川氏）

飲み物を片手に友だちや大学生スタッフとおしゃべりができるカフェエリアでは、約30種類の飲み物を用意。プレイエリアには、ボードゲームやカードゲームを約40種類設置しています。

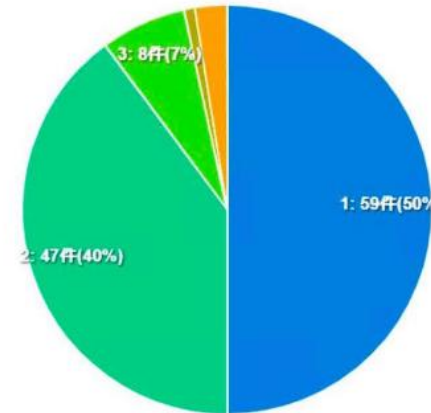
「単純ですが、こうして数を揃えることが、利用者のリピートや口コミにつながっているようです」（長谷川氏）

実際、開設3ヶ月で利用登録者数は1,950人、利用者数は約8,300人。平均して1日100人が利用し、特に土曜・日曜や学校が早く終わる日、テストが終わった週末などは利用者が多い傾向にあります。

「居場所の運営には中高生の意見を反映し、主体性を尊重することを大切にしてきました。開設前に中高生世代モニターの声を丁寧にヒアリングしてフロアづくりに反映させたほか、現在では10人ほどの中高生に『つなきち運営委員会』に参加してもらい、利用者へのヒアリングやルール作り、機能や備品の配置、イベントの企画・運営などについて月に一度、話し合っています」（長谷川氏）

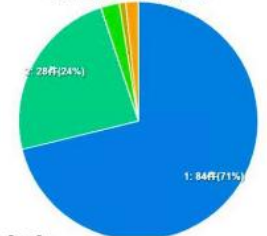
2 利用状況（利用頻度など） ※利用者アンケートから

(5) あなたにとって、「中高生の広場」は居場所になっているか？

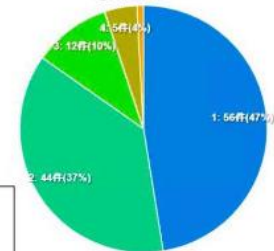


○中高生の広場が自分の居場所になっていると答えた割合は約5割（自分の部屋 7割，家庭 5割 学校 3割 ※ネット 5割）

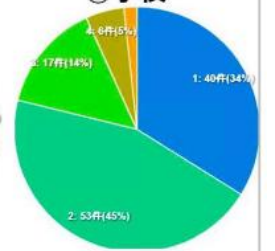
①自分の部屋



②家庭



③学校



5 今後のスケジュール